



新春特別付録



新春特別付録！

おじさん、おばさんの新・国語辞典 バージョン2

『四文字熟語の巻』

このたび文部科学省のお達しにより「四文字熟語」の語句と解釈が現代の社会風俗にあわせて大幅に変更されることとなりました。読者の皆様だけに、ひと足早くお知らせいたします。一部、語句は同じで解釈のみ変更になったものがありますのでご注意ください。

新国語辞典編集室

十八歳未満おことわり。

受験などに悪影響があることが考えられますので、良い子のみなさんは読まないようにいたしましょう。当編集室は落第等について一切責任をもちません。

【暗中模索】

台風で停電になってからあわててコンビニへ懐中電灯を買いに行く危機管理の出来ていない人達をさす。

【意気消沈】

バイアグラが必要な状態をいう。原語「意気消沈」。類似熟語として「優柔不男」（原語「優柔不断」）がある。

【いちご一枝】

苺（いちご）は一枝に一つしか実がならないのでショートケーキは残さず食べましよう、という農林水産省が考え出した広報PRコピー。原語「一期一会」

【一攫千金】

いっかく千金（かんきん）。パチンコなどでひと儲けしようと思ひ、有り金すべてんでんになること。原語「一攫千金」

【海千山千】

おじさん社員を尻目に有給休暇をとりまくり、グアムで日焼け、マッターホルンでスキー焼けする有閑OL達のこと。

【雲古知診】

大便を見て人の健康状態を知る最新医学による健康診断法。原語「温故知新」。

【開眼供養】

コンタクトレンズを排水溝に流してしまい嘆き悲しむこと。

【家人薄命】

家人とは亭主、妻女のこと。双方嫌気がさして早く死ねばいいと内心願うこと。高齢化社会にむけて厚生労働省はこの傾向を深刻に憂慮している。原語「佳人薄命」。

【簡困惣菜】

手抜き料理専門の主婦がそれでも困った時に買ってくるコンビニの料理のこと。原語「冠婚葬祭」。

【危機一髪】

亭主がスナックのおネエさんの長い茶髪をワイシャツにつけて帰宅し夫婦喧嘩になるさまをいう。

【木戸愛落】 玄関を開けて帰宅し妻の顔を見た途端、酔いが覚めてしまつおじさんの様子をいう。原語「喜怒哀楽」。

【玉石混交】 腎臓結石にかかった男子をさす。女子の場合はいわない。

【空即是色】 美人スッチーに出会うことだけを楽しみに飛行機で出張に出かけるおじさんのこと。

【君子豹変】 寝ぼけて「きみこおっ！」と寝言を言い、隣に寝ていた妻にポコポコにされたおじさんのこと。妻の名は幸子。

【健忘術数】 過去の手術の回数を自慢しあう健康志向の中年おじさん達のこと。原語「権謀術数」。

【行員流水】 返済を迫る銀行員に「大企業と同じように借金を水に流せ」と憤る中小企業経営者の様子。原語「光陰流水」。

【鞆丸無知】 満員電車のなかで男子の急所とも知らず大型カバンを押し付けてくるパープーOLをさす。原語「厚顔無恥」。

【自業自得】 会社の利益を独り占めし社員の給与を遅らせる悪徳経営者をさす。

【四書五経】 現代サラリーマンの愛読書。四書とは、少年ジャンプ、九州スポーツ、転職情報、女性自身、をさす。

【紙面巨歌】 読売巨人軍の記事ばかり大きく掲載する「報知新聞」のこと。原語「四面楚歌」。

【酒者洗濯】 洋服にゲロを吐くまで酒を呑む酒乱おじさんが翌朝洗濯しながら禁酒を誓つこと。原語「取捨選択」。

【支離目茶苦茶】 「滅裂」という字が読めない大学生が増えたため、国語審議会の答申により文字の変更を行った。原語「支離滅裂」。

【新機一点】 独身アパートの一室に月賦で買ったパソコンだけが光り輝いているありさま。原語「心機一転」。

【前戯不覚】 マンネリ夫婦がイントロなしでいきなりしちゃうこと。原語「前後不覚」。

【粗衣粗食】 ジーパンにわざと穴をあけ、百均の「ラーメン十個百円」で暮らす現代の若者風俗をさす。

【他力本願】 焼き鳥屋で支払いの時にいつもいなくなるおじさんのこと。

【単刀挿入】 久しぶりに出会う恋人同士がたまらず抱き合つさまをさす。原語「単刀直入」。

【朝礼暮改】 朝礼の時に話したことを真反対のことを夕方メールで送ってくるパープー上司のこと。原語「朝令暮改」。

【美辞麗句】 お世辞一回二千元と値段表に書いてあるにもかかわらず足しげくスナックに通つおじさん達をさす。

【物々交換】 顔に「ぶつぶつ」が出来たニキビ中学生がクレアラシルを頻繁に塗り替えること。

【不変不糖】 糖尿病を心配するおじさんが極端に糖分を恐れることをさす。原語「不偏不党」。

【無味乾燥】 おばさん達が痩せるために食事を抜いて必死で食べるサプリメント錠剤のこと。

【明鏡止水】 鏡を何度見てもシワがなくならないので、怒ってTVショッピングの化粧水を買うことをやめるおばさん達のこと。

【猛母三遷】

教育ママが子供の進字のために塾を絶えず変え続けるありさまをさす。原語「孟母三遷」。

【有銃普段】

銃による殺人事件が絶えない殺伐としたアメリカ社会をさす。原語「優柔不断」。

つづく